

資料7

平成21年10月8日（木） 日本年金機構設立委員会

長妻厚生労働大臣御挨拶（未定稿）

〔大臣〕

みなさまお早うございます。

わたくしこのたび厚生労働大臣を拝命した長妻昭でございます。本来であれば今日の冒頭にご挨拶すべきだったのですが、この終了後となりまして、恐縮でございます。

本当に今までこの日本年金機構の設立に関しまして皆様のお知恵を拝借し、あらゆる分野の専門家の方々から貴重なご意見をいただき、この組織が固まってきたときいているところでございます。そして民間の方からも優秀な方々の内定、そして本日もそのお話があったというふうに伺っているところでございます。

私どもの政権といたしましては、熟慮の結果、この日本年金機構につきましては、大きな国民からの期待、つまり、消えた年金問題、一連の記録問題についての決着、そしてそれを図ってほしい大きな器をどうするかということでございまして、私どもとしてもそれに最もふさわしい組織形態、あるいは形態だけではなくて中身の充実、何よりもヒト、モノ、カネによる国家プロジェクト、それを早急に実施して、2年間集中的に対策をしようと、こういうことで政権を担わせていただいているところでございます。

この日本年金機構につきましては、熟慮の末、この機構を発足させるということを我々決断をさせていただいているわけでございます。皆様方におかれましては、今後とも、私どもの方から、この組織がよりよいものになるようなお知恵をいただく機会があるかもしれませんので、もしそのときには皆様方からも忌憚のないご意見、アドバイスもいただきたく存じます。

そして、我々が考えております今度は年金制度の改革でございますけれども、これにつきましてもやる事業でございまして、1期4年の政権の中で法案を成立をさせていこうと、そして、2期目以降に新しい年金制度をスタートさせる、そのスタートまでには歳入庁という構想をもってございまして、税金と年金保険料を一緒に集めるといふ、なかなか税情報、所得情報の乏しい今の体制では徴収というのに非常に制限がある、制約がある、そういう認識で海外の事例も参考にいたしまして、歳入庁構想というのを我々持っているところでございます。

いずれにいたしましても、この日本年金機構、その間十分に年金の信頼を回復すべく民間のお知恵も、そして皆様方専門家のお知恵もいただいてよりよい組織に何とし

でもして、国の信頼を回復する一つの原動力となる、そういう組織として、我々は期待をしているところでございます。

我々もかつて懸念を持っておりました点、例えば日本年金機構になりますと国から遠くなる、厚生労働省や行政、あるいは政治の手が届かなくなって本当にきちっとしたコントロールができるのか、こういう不安もございました。その点についての改善策なども、今後皆様方からご指導を賜れば大変ありがたいというふうに考えているところでございます。

今来年度予算の概算要求の作業もしているところでございまして、この点についても、あるいは国家プロジェクトとしてヒト、モノ、カネを差配する点につきましても我々も十分熟慮をして国民の皆様の期待にこたえられるような、そういう予算編成をしてみたいと思いますので、今後とも皆様方のご指導を賜りますよう心よりお願いを申しあげまして、私の挨拶といたします。今後ともよろしく願いいたします。